

心ふれあう

ちょっと

おかやまのちょっといい話

シリーズ 19

※チラシは偶数月の第一日曜日に皆様にお届けしています。
過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

本当の私に出会った日

私は、可愛くもない、愛想も無い、勉強もできない、運動もできない、本当に何をやってもダメで目立たない女の子でした。

中学生のころ、本当に何で自分は生まれてきたんだろう、なんでこんなに役に立たないんだろうと悩んでいました。思春期とはいえ、毎日毎日そんなことばかり考えて、人より劣っているところばかり探していたように思います。初恋の男の子にもついに話しかけることもできずに卒業しました。

高校卒業後、地元倉敷の会社に就職して事務をすることになりましたがほどなくして体調を崩し入院する事になりました。腎臓の機能が低下してしまう病気でした。その後、1週間ほどで退院しまし

たが、病気との長い付き合いの始まりでした。

体調を崩すことが多くなり、回復してはまた入院・手術という事を10年間で7度も繰り返ししました。元氣になれば普通に生活は送れるのですが、ちよつと疲れが溜まるとすぐに体調を崩してしまいます。「どうして自分はこんなに体が弱いんだろう。本当になんて弱い人間なんだろう。両親にも迷惑をかけたばなしで、なんのために生きているのだろう」とさえ考えるようになっていました。

7度目の入院が終わり、退院した後のことでした。10年ぶりにという事で、高校の同窓会の案内が届いて

いました。どうしようか考えましたが、友達に誘われ出席することになりました。

10年ぶりに担任の先生にもお会いしました。近況報告で入退院を繰り返しているかと伝えると「君はなんて強い体なんだ」とおっしゃいました。「いいえ、私の体は弱いのです。7回も入院しているんですよ。どうして私が強いのですか？」と尋ねると、「7回入院する度に、元氣になって退院するんでしょう、体が強い証拠だよ。」とおっしゃいました。大変に驚きました。同時に私は目頭が熱くなり、思わず泣きそうになってしまいました。

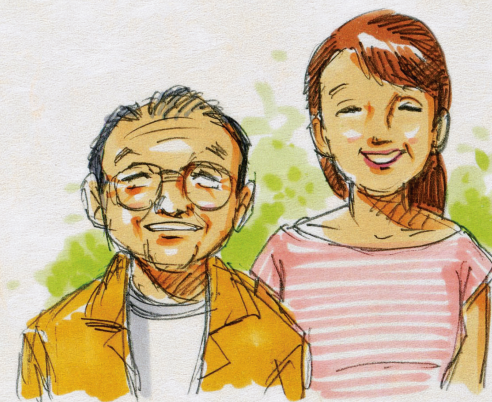
帰って母にそのことを話すと母も泣き出し、私も涙が止まらなくなっていました。

「あなたは弱くなんか無い、私の子なのよ。」と。

ずっと私は自分は弱いと思い込んでいました。自分はダメだと思っ込んでいました。

先生の言葉が効いたのだと信じていますが、それから30年、結婚し、子も孫も生まれ、持病と上手に付き合いながら一度も入院することなく生活しています。

先生もご健在で今でも交流させて頂いています。



あなたのアーバンホール

アーバンホール

葬儀・法要・ギフト

私たちの心の中に人の数だけ世界があります。
この世界を形づくっているのは、私たち自身なのかもしれません。
いつも前向きに、希望を持って毎日を輝かせたいですね。

ハンニバル
(カルタゴの将軍)

視点を変えれば不可能が可能になる

皆様の「心ふれあう おかやまのちょっといい話」をお寄せください。

ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしております。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。
◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市堀南805-1 ◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。